

第2回 10月31日(金)

「語の分類と格闘する中国語辞書—中国語辞書における品詞表示をめぐって—」

講師：三宅 登之 東京外国語大学外国語学部言語・情報講座東アジア課程教授

英和辞典などを開くと、それぞれの語に名詞・動詞などの品詞表示がされていますが、中国語の辞書の世界では、語に品詞表示が付され始めたのはごく近年のことです。中国で出版されている最も中国語の規範となる辞書『現代汉语词典』でも、2005年に発行された最新の第5版より以前の版では、品詞名が付されていませんでした。日本でも最近は様々な出版社から多くの中国語の辞書が出版されていますが、複数の辞書を比べると、ある語の品詞が辞書によって異なっているようなことは、決して珍しくありません。

語の形態変化のない中国語では、ある語の品詞の確定が困難なことはしばしば起こります。“研究”という語は「研究する」という動詞と「研究」という名詞があると単純に考えてよいのか、“疼”という語は「痛い」という形容詞なのか「痛む」という動詞なのかなど、意味に基づいて品詞を割り振っていかうとすると、すぐに壁に突き当たります。

このような中国語の品詞分類が抱える困難な点は、実は中国語という言葉自体の性質に起因しています。本講座では、なぜ中国語という言葉においては品詞を統一的に分類するのが困難なのかについて解説し、主に日本の出版社が出している様々な中国語の辞書が、実際に品詞分類を行うに当たってどのような対処をしているのかについて、具体的な実例を見ながらお話ししたいと思います。